

住民とともに立ち上げた認知症カフェ （東久留米市）

東久留米市では、地域包括支援センターが主催するさまざまな事業から、「認知症になっても、あんしんな地域づくり」を地域課題とし、“認知症の方を含む、ご高齢の方が立ち寄れる場” “認知症について相談できる場”が必要であると考えました。地域包括支援センターや自治会・介護保険関係の事業所などが、認知症サポーター受講者・民生委員・地域住民の方と共に検討する中で、「認知症カフェ」の立ち上げを具体化していきました。

そこで、東久留米市としては、立ち上げに関する経費の支援を行う「東久留米市認知症カフェ開設支援補助金」を事業化しました。この事業が対象とする認知症カフェとは、認知症のご本人やご家族が気軽に地域の住民と集まり、認知症に関する相談、助言又は情報の提供等を行うことで、認知症状の早期支援につなげると同時に、地域住民の認知症に対する理解を深める場所としました。

平成 29（2017）年度に5団体が補助金を活用し、市内でカフェを開催しています。認知症に関する相談や、介護サービスにはつながらない当事者の方やご家族が参加するなど、地域に根付いてきています。また、市が主催する連絡会で団体同士、活動内容や困りごとなどを共有しました。